

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 森と木と水の環境教育推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 恵みの森づくり推進課 木育推進係 緑化推進係

電話番号：058-272-1111 (内 3031) E-mail：c11513@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,181千円 (前年度予算額：1,181千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,181	0	0	0	0	0	0	0	1,181
要求額	1,181	0	0	0	0	0	0	0	1,181
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・県内で展開される様々な森林づくり活動の情報を集約・発信する「ぎふ森林づくりサポートセンター」を設置。
- ・県内各地のぎふ木育ひろばや豊かな自然、里山を活用し、木育・森林教育の両面から、森と木からの学び「ぎふ木育」を普及することができる人材を育成するため、木育・森林教育指導者養成講座の開催、ぎふ木育 (森のようちえん等)・里山づくりにおける人材登録と活用のマッチングを行う。
- ・センターで蓄積した情報を森林・環境税事業の推進に有効活用する。

(2) 事業内容

- ・ぎふ森林づくりサポートセンター運営にかかる経費。

(3) 県負担・補助率の考え方

県の緑化推進に寄与するものであることから、県負担とする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	384	研修講師謝金
旅費	283	研修講師費用弁償及び業務旅費
消耗品費	352	コピー代等
役務費	136	電話代、郵送料、研修参加保険料、クリーニング代
使用料及び賃借料	26	研修室借上料
合計	1,181	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・長期構想

IV-1 森・川・海をつなぐ清流とふるさとの自然を守る

- ・森林がもつ水源かん養機能など多面的な機能を維持・増進し、健全で豊かな森林をつくる取組を進め、岐阜県の自然と水源を守る。

- ・第三期 岐阜県森林づくり基本計画

(3)人づくり及び仕組みづくりの推進

(2) 国・他県の状況

国においては、同様の機関は無し。公益社団法人国土緑化推進機構が担う。都道府県において森林ボランティア等支援組織を設置しているのは22県。

(3) 後年度の財政負担

サポートセンターの運営経費については、毎年同額程度の財政負担が必要。

(4) 事業主体及びその妥当性

業務で得た情報を蓄積した継続的な活動のために、県直営が妥当である。

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

県内の森林づくりに関するイベントや団体の情報を紹介し、県民協働の森林づくりを推進する。

幅広い世代が森や木に親しみ、森林とのつながりを体験することができる機会を増やすため、木育・森林教育の両面から、ぎふ木育を普及することができる人材を育成する。

(目標の達成度を示す指と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
参加型里山活動実施団体数	32 (H27)	(H)	(H)	44 (R1)	50 (R3)	88%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

- ・ 事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数など）
 - ・ ホームページ等による情報発信 540件（R1年度実績）
 - ・ 森林づくり活動に関する相談対応 51件（ 〃 ）
 - ・ 森林づくり活動に関する用具貸出 142件（ 〃 ）
 - ・ 安全管理研修・里山づくり後継者養成講座（2回開催、13人参加）

(前年度の成果)

- ・ 前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
取材をきっかけに、他団体のイベントを紹介し、団体同士の交流につなげた。
「安全管理研修・里山づくり後継者養成講座」を2回開催し、活動団体の安全管理及び森林管理技術の向上を図った。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	森林づくりに関わるNPO等団体の活動が継続的に行われるように支援する必要がある。 地域の特性を生かした森づくりや里山づくり、森や木に親しむ活動に関する講習会への関心は高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	森林づくりに関わるNPO等団体数は増加傾向にあり、継続的に活動が行われている。 また、「安全管理研修・里山づくり後継者養成講座」を2回開催し、活動団体の安全管理及び森林管理技術の向上を図った。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価) ○	ホームページやメールマガジンを活用し、広く県民に森林づくりに関するイベントや団体を周知し、県民協働による森林づくりを推進する機運の高揚につながっている。 安全管理と里山づくりの研修を同時に開催し、効率化を図った。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 暮らしの中の木と森林とのつながりを伝えることのできる人材の育成

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内各地のぎふ木育ひろばや豊かな自然、里山を活用し、木育・森林教育の両面から、ぎふ木育を普及することができる人材を育成する。
